平成五年九月一日発行（毎月1日発行）三六〇号　発行／黒埼町役場　〒九五〇―二　新潟県西蒲原郡黒埼町大野二八四三―一　電話／〇二五―三七七―三一〇一　編集／企画商工課（担当・広報統計係）　印刷／小野塚印刷㈱　経費一部四一円

人 ㉓ 日本民営鉄道協会から表彰される

田沢 実さん

新潟交通㈱ 電車運転士　寺地　五十八歳

〝デンテツ〟と親しまれ、黒埼町から新潟市へ白根市へと通勤・通学など、まさに〝生活の足〟となっている新潟交通の電車。寺地在住の田沢実さんは、その電車の運転士を二十八年間勤め、日本民営鉄道協会から安全輸送で表彰されたそうだ。お話を伺ってみた。

おめでとうございます。この表彰は、どういった方が受けられるのですか。「ありがとうございます。この表彰規定は日本民営鉄道協会の会員会社の従業員で事故防止、鉄道整備などの発明・研究や永年勤続者を表彰するんだそうですが、私の場合は、まあ永年勤続で貰ったんですよ。黒埼在住者では、初めてだったので、うれしかったですね」と、おっしゃる。

田沢さんは昭和二十六年から五年間焼鮒駅の駅員をされたそうで「あの頃は地元との交流が多く、総代さんや顔役の人が毎日でも駅にお茶を飲みにきていましたね。また、〝ダンゴ日〟というものがあって毎月二回ぐらい地元の人から食べさせてもらった記憶もあります。いい時代でしたね」と少し寂しそうに笑う。

その後昭和三十一年から車掌をされたそうで、その時のエピソードは「板井駅で降りて終札していたら、電車が発車して、あわてて近くの農家のオート三輪（ウーン編集子は知っているが、知らない人も多いのでは）で追っかけた、なんて車掌もいました。私も置いてかれたことはありましたがね」と笑う。田沢さんが、運転台に立ったのは昭和四十年。以来二十八年間無事故（責任事故）を通してきた。「運転台に立っていると、絶対に事故を起こしてはいけないという緊張感で常にいっぱいですね」とおっしゃる。

写真／田沢実さん。自宅にて撮影。白山前ー東関屋が廃線になった感想をお聞きしたら、「私は白山浦の生まれなので寂しいですね」と、おっしゃた。

新潟県の交通死亡事故増加率は全国一多く（六月末現在）百六十四人の方が亡くなっている。その中には踏切の事故もあるようだ。

「警報機の無い踏切では電車が見えたら、通りすぎるまでまってほしいですね。電車の速度は以外と早いものです。また、山田のスーパー上手の踏切は見通しが悪く、子供や主婦が時々飛び出してくると、ドキッとします。注意してほしいですね」と事故防止を呼びかける。電車との事故は自動車同志の事故よりも大事故になる確率が高い。〝大丈夫だろう〟のだろう運転は止めなければならない。

最後になりましたが、田沢さんの今後の目標は「定年まであと少ししかないので、残った期間を無事故で通したい。それにつきるでしょうね」

ほんの一冊

「トミーが三歳になった日」

ミース・バウハウスぶん
よこやきかずこさく
ほるぷ出版

第二次大戦中のユダヤ人収容所でナチスの目を盗んで絵を描き続けた画家ペジュリフ・フレッタの絵をもとにミース・バウハウスが文章を起こした絵本である。前半はフリッタの子供トミーの養父レオ・ハースの証言をもとにした収容所での生活を描き、後半はフリッタの残した絵本という構成になっている。十年も前に出版された本であるが、戦争について話題になる時期には必ずといっていいほど思い出す本である。苦境の中でひたすら希望を見失わなかった人間の気高さ、ユーモラスで愛情に満ちた絵。絵本に分類されてはいますが、おとなにこそ読んでほしい絵本です。図書館でどうぞ。

（中山佳奈恵）

〈人の動き〉

7月末日現在		（前月比）	〔前年同日比〕
人口	23,975	（＋ 34）	〔＋142〕
男	11,749	（＋ 20）	〔＋ 51〕
女	12,226	（＋ 14）	〔＋ 91〕
世帯	6,656	（＋ 9）	〔＋135〕

7月1日～末日

出生	28	転入	88
婚姻	17	転出	73
死亡	9		

編集室

まずはお詫びから、八月一日号の一ページの写真説明文で、写真左上、写真左下とすべきところを写真右上、写真右下としてしまいました。また、七ページ議会だよりの五段目の十四行目、自動消化装置を自動昇降装置にしてしまいました。また、十五ページ、二十周年のおしらせの「黒埼町の四季…」の審査員を木村尚さんとしてしまいましたが、正しくは木原尚さんです。お詫びして訂正いたします。▼今月号では黒埼まつりや成人式をお知らせしましたが、いかがでしたか。黒埼まつりの民謡流しでは雨の中、皆さん本当にご苦労様でした。雨を吹き飛ばすような熱気で踊っていた姿が印象的でした。また、成人式では、新成人の皆さん四十人にインタビューしましたが、みんな自分の意見をはっきりと言うことには、少し驚きを感じた編集子でした。この成人式の四十人インタビューは来年も行いますので、来年の方はよろしくお願いします。

◎さて来月号では、敬老会などをお知らせする予定です。